

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立出雲第一中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 1年生の国語は、「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均正答率を大きく上回る。
 ○2年生の国語は、「情報の扱い方」に関する事項において、全国平均正答率を大きく上回る。
 ○1年生の数学は、教科の正答率、領域別正答率（データの活用を除く）とも全国平均正答率を大きく上回る。
 ○3年生の数学は、「図形」「データの活用」の分野で全国平均正答率を大きく上回る。
 ○2・3年生の英語は、「書くこと」の領域で全国平均正答率を大きく上回る。
 ●2・3年生の国語は記述式の問題については、無回答率が高かった。
 ●2年生の数学は、「データの活用」の領域で全国平均正答率を大きく下回る。
 ●3年生の英語は、「読むこと」の領域で目的に応じたり、必要な情報を読み取る問題において全国平均正答率を大きく下回る問題が見られた。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○「話すこと・聞くこと」の領域において、全国平均正答率を大きく上回った。 ○記述式の問題において、全国平均正答率を上回った。	□授業内での活動と普段の生活を結びつけて学習に取り組めるよう教材を工夫する。 □発問や授業の振り返りなど、生徒が自分の意見を書く場面を積極的に設ける。
	2年	○「読むこと」の領域において、全国平均正答率を上回った。 ○「情報の扱い方」に関する事項においては、全国平均正答率を大きく上回った。 ●歴史的仮名遣いに関する問題では、全国平均正答率を大きく下回った。 ●条件に従いながら文章を書く問題では、無回答率が高かった。	□古典の学習において、歴史的仮名遣いについて繰り返し確認をする。 □自分の考えを伝えるために、構成を考えたり、根拠を明確にしたりして、文章を書く機会を増やす。
	3年	○「話すこと・聞くこと」の領域において、全国平均正答率を上回った。 ○「言葉の特徴や使い方」に関する事項において、全国平均を上回った。 ●記述式の問題については、無回答の問題が多かった。 ●指定された語句の類義語を文章中から抜き出す問題についても、無回答率が全国平均を上回っている。	□振り返りや文章を書く活動を多く取り入れ、書くことの時間を多く確保する。 □語彙を増やしていく。
数学	1年	○教科の正答率、データの活用を除く領域別正答率とも全国平均正答率を大きく上回る。 ○問題の内容別正答率では、ほとんどの問題の内容において全国平均正答率を大きく上回るか上回る。 ●場合の数の問題で全国平均正答率と同程度かやや下回る。	□2年次に学習する確率の単元で、意識的に場合の数について丁寧に復習する。
	2年	○教科の正答率が全国平均正答率と同程度、数と式、関数の領域別正答率が上回り図形が同程度である。 ○問題の内容別正答率では、「文字式」において全国平均正答率を大きく上回る。 ●データの活用の領域で全国平均正答率を大きく下回る。 ●比例式の問題が全国平均正答率を大きく下回る。	□問題演習を多く取り入れる。方法として小テストや数学自学ノートの提出が考えられるが、タブレットドリルが導入されたので、定期的にタブレットドリルでの宿題を出す。
	3年	○「図形」「データの活用」の分野で全国平均を大きく上回った。 ○「数と式」の分野で全国平均を上回った。 ○記述式の問題では全国平均を上回った。	□関数の問題で、表から式を導き、xの値を式に代入し、yの値を求める問題の正答率が低かった。表やグラフから式を求めたり、式から表、グラフを作成したりする演習を多く取り入れる。
英語	2年	○「書くこと」は、全国平均正答率を大きく上回る。 ●語彙の知識・理解の問題は、全国平均正答率を下回る。 ●英作文問題において、無回答率が高い。	□聞きとり問題を授業の帯活動をして継続して行う。 □語彙を復習する場を意識的に設け、語彙の定着につなげる。
	3年 3技能 「聞く」 「読む」 「書く」	○「聞くこと」は、日常的な話題について情報を聞き取ったり、概要を捉える問題は全国平均正答率を大きく上回る。 ○「書くこと」は、日常的な話題、社会的な話題についての記述問題は全国平均正答率を大きく上回る。 ●「読むこと」では、目的に応じたり、自分のおかれた状況などから判断したりして、必要な情報を読み取る問題の正答率が全国平均を大きく下回る。 ●「聞くこと」は、要点を捉える問題、必要な情報を読み取る問題の正答率が全国平均を大きく下回る。	□聞き取り問題を授業の帯活動として継続して行う。 □単語の発音、意味、つづりを関連付け、語彙の定着につなげる。 □目的に応じたり、自分の置かれた状況と関連付けた活動を意識させる授業内容を工夫する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話し合いで、自分の考えを積極的に話したり、相手の考えをしっかりと聞き取っている生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ○3年生は、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていると肯定的に捉えている生徒の割合は、全国に比べて大きく上回る。 ●授業中に「学習のめあて」が黒板などに示されていたと思う生徒の割合が、2年生は市に比べて大きく下回る。	○全校体制での授業改善への取組 □教科グループを中心とした授業参観と協議を行う。 □単元及び1時間単位の目標（めあて）を明確にし、それを生徒と共有して（掲示する等）授業に取り組む。途中で再確認をし、意識するようにする。 □自分の思いや考えを表現する言語活動の充実を図り、各教科の資質・能力の育成を図る。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○自分で勉強の計画を立てて、勉強している生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ●3年生で平日1日2時間以上勉強している生徒の割合は、全国を大きく下回る。 ●自主的な学習（辞書、参考書や問題集の活用）に取り組む生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく下回る。	○定期テストに向けた取組 □学習計画を立て、その取組を振り返る機会を設ける。 □面談等で定期テストの取組を保護者と共有し、家庭と連携して生徒を支援する。 ○効果的な学習法の活用 □授業の中で辞書やタブレットの活用法を学び、繰り返して使用する中で、日常的に活用できるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○1、2年生は、自己肯定感に関わる項目の割合が、全国に比べて大きく上回る。 ○どの学年も、人が困っているときは進んで助けている生徒の割合が、全国に比べて上回る。 ○1年生より2年生の方が、地域の行事に参加している割合が多く、3年生は地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う生徒の割合が、全国に比べて上回る。	○総合的な学習の時間の充実 □地域について調べ、役立てる方法を考えることで、学びが社会に生かせる実感できる学習を行う。 ○キャリア教育の充実 □特別活動や道徳で、自己を見つめ、生き方を考える機会を増やす。 □キャリアパスポートをもとに、自己目標を設定し、振り返る時間を設ける。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第二中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【全国学力調査:中3対象】

○国語は、全国平均正答率と同程度である。

○数学は、全国平均正答率を上回る。

●英語は、全国平均スコアを下回る。

【市学力調査:中1・2対象】

○1年生の数学は、全国平均正答率を上回る。

○1年生の国語は、全国平均正答率をやや上回る。

○2年生の英語は、全国平均正答率と同程度である。

●2年生の国語、数学は、全国平均正答率を下回る。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○多くの領域において、正答率が全国平均をやや上回った。 ○「読むこと」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の領域については、全国平均をかなり上回った。 ●「目的や意図」を意識して解答しなければならない問題の正答率が低い。	□目的や意図に応じて考えさせるような学習課題を各領域で設定していく。
	2年	○漢字を書く問題の正答率は、全国平均を大きく上回った。 ●「書くこと」の領域に関する問題、文法・語句に関する問題の正答率が全国平均を大きく下回っている。	□文法や語句について、小テストを行うなどして定着を図る。 □授業の中で、書くことについての学習課題を意図的に取り入れる。 □話題の展開、目的や意図などを意識させるような授業展開を工夫する。
	3年	○全体をととして、県・全国平均の正答率より低いものはなかった。 ○記述式の問題や、「話すこと・聞くこと」の領域の正答率が全国平均を上回った。 ●正答率は同程度なものの、語句や語彙に関する問題に課題がみられる。	□語句や語彙についての理解が深まるような課題を設定する。
数学	1年	○面積と体積、比例・反比例の問題では全国平均を大きく上回った。 ●2つの整数から最大公約数を求める問題や、縮図から距離を求める問題で全国平均を下回っている。	□2つの数を比べることや、式を用いた計算などの既習事項の振り返りをしてポイントを確認する。 □図などの具体的な事例を使用してスモールステップで確認する。
	2年	●全領域で基礎、応用ともに全国平均をやや下回るか、下回っている。 特に方程式は大きく下回っている。 ●数量関係をとらえたり、解き方の意味を理解することに課題がみられる。	□立式の際に図や表を用いて、意味を考えながら捉えるようにする。 □方程式の解き方で、その根拠となっている考え方も合わせておさえる。
	3年	○平均正答率を比べると、全体的に全国平均を上回っている。 ○選択式の問題で県・全国平均を大きく上回っている。 ●関数だけは正答率が全国平均と同程度であった。	□計算練習など取り入れ、定着を図る。 □関数関係にあることを説明する場面を設ける。
英語	2年	○教科全体の正答率は、市・全国平均と概ね同程度であった。 ○「読むこと」「書くこと」の領域の正答率は、市・全国平均と概ね同程度であった。 ●「聞くこと」の領域の正答率が、全国平均を下回った。 ●観点別の「思考・判断・表現」の正答率が、市・全国平均を下回った。	□授業の帯学習として、生徒同士があるテーマについて「話す」活動や、ALTとのSmall Talk、Q & Aのような英語を聞いて即興でやりとりをする機会を確保する。 □各単元で学んだ単語や文法事項を活用しながら、場面やテーマに沿って、自分の考えをまとめるWriting活動やSpeaking活動を計画的に設ける。
	3年 3技能 「聞く」 「読む」 「書く」	○「読むこと」の領域の正答率が、県・全国平均を大きく上回った。 ○「書くこと」の領域の正答率が、問題によっては全国平均を大きく上回った。 ●「聞くこと」の領域の正答率は、問題によっては県・全国平均を下回った。	□授業の帯学習として、生徒同士があるテーマについて「話す」活動や、ALTとのSmall Talk、Q & Aのような英語を聞いて即興でやりとりをする機会を確保する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○中1では、話し合いの活動で積極的に自分の考えを話していると回答した生徒の割合が全国平均を上回った。 ○ノートをきちんと取っていると回答した生徒の割合が全国平均を上回った。 ○各教科で学習した内容が、将来社会に出たときに役に立つと思っている生徒が多い。 ●学習した知識を他の人に話していると回答した生徒の割合が低い。	□板書の内容だけでなく、自分の考えや、授業をととして考えた深まった内容などをノートに書く活動を行っていく。 □考えたことをアウトプットできるような授業の構成を工夫する。 □授業だけでなく、将来を見据えた生徒像をイメージして単元構成をしていく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○計画を立てて勉強している生徒の割合が高い。 ●家庭学習の時間が、全国平均と比べるとかなり低い。 ●新聞を読んでいるや、図書館を利用していると回答した生徒が少ない。	□各教科で定期的に課題を出し、家庭学習の習慣化を図る。 □課題の提出状況や内容をきちんとチェックし、評価につなげていく。 □読書や新聞に触れることのよさを積極的に伝える。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域社会をよりよくしたい、何かしたいと思っている生徒が多い。 ○困っている人の手助けをしていると回答した生徒の割合がかなり高い。 ●地域の行事に参加している生徒が少ない。	□地域で行われている行事等の情報を提供し、参加を促す。 □地域の方から良い報告があったときには生徒に伝える。また、地域の方から支えられていることを伝えていく。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第三中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1年生国語の平均正答率は、市と全国と同程度である。
○2年生国語の平均正答率は、市と同程度であり、全国を上回る。
○3年生国語の平均正答率は、県を上回り、全国と同程度である。
○1年生数学の平均正答率は、市と同程度であり、全国を大きく上回る。
●2年生数学の平均正答率は、市と同程度であり、全国を下回る。
○3年生数学の平均正答率は、県を大きく上回り、全国をやや上回る。
○2年生英語の平均正答率は、市、全国と同程度である。
○3年生英語の平均正答率は、県、全国を上回る。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○全体の平均正答率は、市と全国と同程度である。 ○「読むこと」の領域が全国正答率を上回っている。 ●「漢字を書く」「文章を書く」について課題がある。	□定期的に行っている漢字テストに引き続き取り組み、基礎・基本となる漢字の力を高めていく。 □単元のレポートや授業の振り返りの仕方を工夫して、自らの考えを書かせる機会をとる。 □文章を書く折に漢字を努めて使うようにさせる。 □「話す」「書く」活動において文法的に正しい表現を意識させる。
	2年	○平均正答率は、市と同程度であり、全国を上回っている。 ○「書くこと」の領域が全国正答率を上回っている。 ●無回答の割合が高い問いがある。	□毎回の授業で実施している漢字小テストに引き続き取り組み、基礎的な漢字の力を高めていく。 □定期テストで作文問題を設定し、事前事後指導を通して書くことに慣れさせていく。 □グループワークなど他者との対話の機会を設定し、「話す・聞く」力の向上を高めていく。
	3年	○全体の平均正答率は、県を上回り、全国と同程度である。 ○領域別正答率では、「データの活用」が市や全国より上回っている。 ●【言葉の特徴や使い方に関する事項】において正答率が低くなっている。 ●無回答の割合が二桁になっている問いが4問ある。	□言葉の概念を捉えられるように、辞書を活用した授業を展開する。 □読み取った内容を自分の言葉で表現できるよう、ミニ作文作成の実施を推進する。
数学	1年	○全体の平均正答率は、市町村や全国を上回っている。 ○内容別で見ると、平均正答率はほとんどの内容で、おおむね市町村や県平均と同等かそれ以上である。 ●「データの活用」は市町村平均より2.6ポイント低い。	□「データの分析と活用」の単元をはじめ、その他の単元でも自分の考えを式や表・グラフを活用して説明する活動を行い、数学的な表現を使った説明や判断をする力の定着を図る。 □問題演習や小テスト等を活用したドリル学習で基本的な計算力の定着を図る。また、適切に個別指導を行い、内容理解を促す。 □数学の自学ノートを実施し家庭学習の習慣につなげていく。
	2年	●全体の平均正答率は、市と同程度で、全国を下回っている。 ○領域別正答率では、「データの活用」が市や全国を上回っている。 ●『知識・技能』では、1次方程式を解くこと、数量の関係を不等式に表すこと、比例のグラフをかくことに課題がある。 ●『思考・判断・表現』では、図形の移動の方法を説明することに課題がある。	□1次関数の単元で比例のグラフの復習をするなど、前年度の復習を交えながら知識・技能を確実なものにしていけるような指導を行う。 □自分の考えを数学的な表現を使って説明する機会を授業の中やレポート課題を通じて積極的に取り入れる。 □小テストを行い、学習内容の定着を図る。 □デジタル教材を活用する。
	3年	○全体の平均正答率は、県を大きく上回り、全国をやや上回っている。 ○無回答率、記述式問題の正答率も、県、全国を上回っている。 ●3問正答、13、14問正答の割合が県、全国を上回っており、学力差が開いていることが課題である。 ●図形が他の分野に比べると正答率が低い。	□学習が困難な生徒には、基礎基本を定着できるよう反復練習等を行う。 ○図形の分野の学習をする際には、既習事項を復習しながら指導を行うようにする。 □学び直しの機会を意図的に設けて理解の定着を図る。 □デジタル教材を活用する。
英語	2年	○並べかえや語形・語法の知識・理解の問題では、全国正答率や目標値を上回るものが多い。 ●聞くことの基本的な力はあるが、要点を捉える問題では正答率が全国平均を下回り課題がある。 ●情報に基づいて正しく書く英作文の問題では正答率が全国平均を下回り課題がある。	□細部の単語を聞き取る活動だけでなく、要点や概要を聞き取る活動を継続的に行う。また、聞き取った内容についてアウトプットをさせる指導を行う。 □授業の中で、与えられた情報を整理してから英文を書く活動を継続的に行う。書く活動の際には、情報を過不足なく正確に表現することを意識させるとともに、文法やスペルの正確性を確認する習慣を身に付けさせることで、正しく書く力の向上を図る。
	3年 3技能 「聞く」「読む」「書く」	○全国と比較して「書くこと」の問いにおける無回答率が低い。 ○日常的な話題について、まとまりのある文を書く問いにおいて、全国平均を5.3%上回っている。 ●社会的な話題についての短い文を読み、要点を捉えることに課題がある。 ●平均IRTスコアは全国と比較して大きな差はないが、上位10%にいる生徒のIRTスコアが615であり、全国の641より低くなっている。	□Small Talkで身近な話題についての会話を行い、その後文字で整理することで、自分の考えや思いを書く力の向上を図る。 □帯活動において、リーディング教材を用い、短い文章を読んで、要点を捉える活動を継続して行う。 □上位層の引き上げのために、目的場面状況の設定をより生徒にとって身近なものにし、取り組みやすい活動を行う。 □ICT教材を活用し、より細やかなフィードバックを行えるようにする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付くことができる。」と答えた生徒の割合が高い。 ○「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる。」と答えた生徒の割合は全国より高い。 ●「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と答えた生徒の割合は全国よりやや低い。	□課題解決における話し合い・学び合いの意義を理解し、意欲的に取り組める生徒の割合が多いので、それをいかし、深い学びにつながるような授業構想を行う。 □国語科に限らず、各教科において、生徒が自分の考えを論理的かつ明確に伝える力を育成するための発表活動や説明の機会を意図的に設ける。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「宿題はきちんとしている。」「自分で計画を立てて勉強をしている。」「勉強にパソコンを利用している。」と答えた生徒の割合は全国より高い。 ●「平日の学習時間が30分より少ない。」と答えた生徒の割合は全国より高い。 ●本を読んでいる生徒や勉強に図書館や辞書を活用している生徒の割合は全国より低い。	□生徒の実態に合った適切な学習課題を提供するとともに、家庭学習への取組が授業の理解につながることを意識して、授業改善を行う。 □学習計画表や振り返り活動を活用して、自分に必要な学習を主体的に考え、計画的に家庭学習に取り組めるようにする。 □授業の中で、図書を通して学びが深まったり、自分の世界を広げたりする経験を積み重ねさせ、自ら図書に親しみ、活用する意欲を高めていく。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」と答えた生徒の割合は全国より高い。 ●地域の行事に参加している生徒の割合は全国よりやや低い。	□保護者やコミュニティセンター等地域の理解や協力のもとに、一層の連携を図り、「総合的な学習の時間」を中心に、地域資源「ひと・もの・こと」を積極的に活用し、地域に貢献する意義を理解し、かつ意欲を高めるような学習活動を設定する。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立河南中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1年生の国語、数学の平均正答率は、市町村、全国の平均正答率と同程度。
 ○2年生国語の平均正答率は、市町村の平均正答率を上回り、全国の平均正答率と同程度。書くことにおいて目標値を大きく上回る。
 ○2年生数学の平均正答率は、市町村の平均正答率をやや上回り、全国の平均正答率と同程度。データの活用においては目標値を大きく上回る。
 ○2年生英語の平均正答率は、市町村、全国の平均正答率ともに大きく上回る。
 ○3年生国語の平均正答率は、市町村の平均正答率を上回り、全国の平均正答率と同程度。
 ○3年生数学の平均正答率は、市町村の平均正答率を大きく上回り、全国の平均正答率をやや上回る。
 ○3年生英語の「読む」、「書く」、「聞く」の3技能において、市町村の平均IRTスコアを上回る。
 ●2年生数学の「正の数・負の数」「1次方程式」では、全国平均を大きく下回っている。記述の解答形式においては目標値を大きく下回る。
 ●3年生数学の「関数」の領域において、全国の平均正答率を大きく下回っている。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○領域別、観点別、ほぼ全国平均を上回る。特に「文法・語句に関する事項」の問題は全国平均を上回る。 ●問題別では、「文章を書く」の正答率が全国平均を下回っている。特に「目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にして文章を書く」問題に課題がある。	□多様な表現に触れる場面を設けたり、学習のまとめや振り返りなどを通して学んだことを表現する活動を設定したりする。
	2年	○観点別、領域別平均正答率は目標値、全国の平均正答率を大きく上回る。 ●問題別では「漢字を読む」の全国正答率を下回っている。漢字を正しく覚え、活用する力に課題がある。	□月例漢字テストに向けての学習を通して、漢字を正しく覚える練習方法を身につけられるようにする。 □ドリルパークを活用し、小学校で習った漢字も復習する機会を増やす。
	3年	○領域別、観点別はほぼ全国平均正答率と同程度である。「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」では、全国平均を大きく上回っている。 ●「読むこと」は県の平均と同率であるが、国の平均をやや下回っている。	□全国平均を下回っていた「読むこと」においては、文章を読み解く着眼点について授業で再確認する。
数学	1年	○領域別、観点別、全てで全国平均正答率を上回っている。特に「数と計算」の領域では、全国平均を大きく上回っている。 ○問題の内容別においては、「小数・分数の計算」と「面積と体積」では、全国平均を大きく上回っている。 ●「平面図形」と「百分率」では、全国平均を下回っている。	□正答率が全国平均を下回っていた「平面図形」においては、対称の軸(中学1年)、多角形の内角の和(中学2年)、縮図(中学3年)と学び直しの機会がそれぞれあるため、既習事項の復習をしながら学習を進め、より深い学びとなるよう指導していくようにする。 □「百分率」においては、日常生活とも関連付けながら、パーセント表示された数の扱いについて丁寧に指導していく。
	2年	○観点別では全国平均正答率を上回っている。 ○「データの活用」の領域では、全国平均を大きく上回っている。 ○問題の内容別においては、「文字式」「空間図形」「データの分布の傾向」で全国平均を大きく上回っている。 ●「正の数・負の数」「1次方程式」では、全国平均を大きく下回っている。	□「正の数・負の数」と「1次方程式」の計算は日頃の学習の中で、反復練習を通して定着を図る。
	3年	○領域別、観点別ほぼ全てで全国平均正答率と同程度かやや上回っている。特に「データの活用」では、全国平均を大きく上回っている。 ○問題形式では、選択式の正答率が全国平均をやや上回っている。 ●領域「関数」は、全国平均を大きく下回っている。	□全国平均を下回っていた「関数」においては、比例・反比例、一次関数など、表・式・グラフの関係など既習事項との比較をしながら「関数 $y=ax^2$ 」の学習を進め、具体的な事象や場面と関連させながら指導する。 □ペアやグループなどの学習形態を工夫し、説明しあう場面を増やす。
英語	2年	○領域別・問題区分別の平均正答率は、いずれも全国平均を上回り、特に「読むこと」、「書くこと」は大きく上回っている。「基礎」、「活用」も大きく上回っている。 ●解答類型を見ると、約2割の生徒に軽微な誤りが見られる。内容を概ね理解し、適切に表現する力は身につけているものの、語句の選択や文法、綴りなど、正確さの面に課題がある。	□単に正答を求めるだけでなく、生徒自身が自らの表現を振り返り、誤りに気づき、より適切な表現へと修正する学習過程を重視するような指導を行う。 □「読むこと」、「書くこと」及び「活用」の力を本校の強みとして捉え、今後も身につけた知識・技能を実際のコミュニケーションの中で活用する言語活動を一層充実させていく。
	3年 3技能 「聞く」 「読む」 「書く」	○県の平均IRTスコアを上回っており、全国の平均IRTスコアは同程度である。 ○「聞くこと」については、県や全国の正答率を上回っている。 ●音声や語句、表現、文法などの知識を活用したり、日常的な話題について、事実と自分の考えや気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書いたりすることに課題がある。	□単語や文型などの定着を図り、書くことや話すことの活動を、既習事項を活用しながら表現する場面を増やす。その際、タブレット端末を用いてキーボード入力にも慣れさせるようにする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「友達や先生から認められている」と肯定的に回答した生徒が全国の割合を大きく上回っている。「話し合う活動や課題解決に向けてお互いに協力できている」と肯定的に回答した生徒も9割を超える。 ●「授業ではきちんとノートをとっている」と肯定的に回答した生徒が全国の割合を大きく下回っている。	□指導力向上に向けて、研究授業や、生徒がICT機器を活用することができるようにするための研修を含め、ICT活用の研修を実施する。 □今後もペアやグループ活動を取り入れ、互いの考えを交流させ、多様な考えを共有し、話し合いの質を高め、深い学びにつなげられるようにする。 □授業の内容や課題に応じてノートやワークシート、タブレットを効果的に活用し、「書く」場面を工夫する。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○どの学年も基本的な生活習慣、家庭学習の習慣は概ね身に付いている。 ●学習のため以外のスマートフォンの使用時間が長く、平日2時間以上使用する生徒が3年生で7割を超える。1、2年生では平日の学習時間が1時間未満の生徒が約半数である。	□各教科で次時の授業内容や、教科書のページなどを連絡し、予習につなげる。 □家庭学習の方法を紹介したり、ワークやドリルパークを活用し、授業と家庭学習をつなげる。 □生活習慣を見直す機会を利用して睡眠時間の確保や安定した生活リズムの重要性を意識させる。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「家の人から認められていると思う」と肯定的に回答した生徒が全国の割合を大きく上回っている。 ○3年生では、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と肯定的に回答した生徒が8割を超え、地域のボランティア活動に参加している生徒もいる。 ●1、2年生では地域の行事に参加している生徒の割合が全国の割合を大きく下回っている。	□地域のコミュニティセンターと連携し、地域のボランティア活動や行事などの情報提供を行い、参加を促す。 □総合的な学習の時間や学校行事などにおいて、地域のひと、もの、ことを活用し、地域の良さや課題を知り、地域に貢献する気持ちを高められるようにする。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立浜山中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

●1年生の国語は、市・全国の平均正答率ともに、下回っている。 ●1年生の数学は、市の平均正答率を大きく下回り、全国の平均正答率と同程度である。 ○2年生の国語は、市・全国の平均正答率と同程度である。 ○2年生の数学は、市の平均正答率を上回り、全国の平均正答率をやや上回っている。 ●2年生の英語は、市・全国の平均正答率を大きく下回っている。 ○3年生の国語と数学は、県の平均正答率を大きく上回り、全国の平均正答率も上回っている。 ○3年生において、「国語が好きですか」「数学が得意ですか」「数学が好きですか」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問に対して「当てはまる」という回答が、県平均、全国平均をともに大きく上回っている。 ○全学年において、「困っている人の手助けをしている」と肯定的に回答した割合が、全国平均を大きく上回っている。 ●3年生において家庭学習への取り組み時間は市と同程度で、全国平均を大きく下回っている。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○「文章を書くこと」は全国平均・市町村平均を大きく上回る。 ○「情報の扱い方に関する事項」は全国平均をやや上回る。 ●「漢字を読む」「漢字を書く」「文法・語句に関する事項」は全国平均・市町村平均を大きく下回る。 ●「説明的文章の読み取り」「文学的文章の読み取り」は全国平均・市町村平均を下回る。	□小学校履修漢字の書き取りを授業で行う。 □音読を行う。 □文章全体の構成や登場人物の心情を捉えるためのワークシートを作成し授業で活用する。
	2年	○「読むこと」について、昨年度は全国・市平均を下回っていたが、今年度は大きく上回っている。 ○文法について、市平均を上回っている。 ●「文章を書くこと」は、市平均を下回る。 ●「漢字を書くこと」は、市平均を下回る。	□小学校履修漢字の書き取りを授業で行う。 □文章構成や心情を捉えるワークシートを作成・活用する。 □言語活動をととして、文章での表現力向上に取り組む。
	3年	○全ての領域で、全国平均を上回っている。特に「読むこと」は、全国・県正答率ともに大きく上回っている。 ○記述式の正答率は、全国・県正答率ともに、大きく上回る。 ●目的や場面に応じて集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することを問う正答率が、全国よりやや下回る。	□漢字や文法などの小テスト、単元テストを用いて、より一層の基礎力の定着を図る。 □表やグラフ、文章など複数の資料を読み取って、自分の考えを条件に従って書く活動を行う。 □授業時にペアやグループ活動を行い、生徒同士で考えを伝えあい、比較し、議論する中で思考を深める活動を行う。
数学	1年	●「基礎」「応用」ともに全国平均にやや下回る状況にある。 ●記述問題等では無記入の割合が高い。 ●領域別では、「変化と関係」「データの活用」に課題が見られる。	□小テスト、単元テストを用いたり、既習事項をくり返し確認することで、基礎力の定着を図る。 □正答だけを求めるのではなく、途中の考えや分かっていることを表現することを大切にする。 □課題の難易度に段階を設け、学力差に応じた学習の機会を確保する。 □生徒同士で考えを説明・比較する活動を取り入れる。
	2年	○全体的に目標値、市平均、全国平均すべて上回っている。特に数と式、図形分野では、目標値を大きく上回っている。 ●関数の分野において、関数と捉える問題や立式する問題については、正答率が低く、無解答の生徒も多い。	□小テスト、単元テストを用いて、より一層の基礎力の定着を図る。 □授業時にペアやグループ活動を行い、説明する機会を増やし、記述する力も身につける。
	3年	○全体的に県平均、全国平均を上回っている。 ○正答数の多いところに分布グラフの山があり、上位層の正答率が高い。 ●正答数の少ないところに分布グラフの山があり、下位層は正答率が低く二極化が激しい。	□小テストなどで基礎力の定着を図る。 □教え合い活動を通して、上位層は複数の分野の既習内容を使ってよりよい解法を考えるなど、思考力の向上を目指す。下位層は「できる」体験を増やすことで苦手意識を小さくする。
英語	2年	○語形・語法の知識・理解は市・全国平均と比べて大きく上回っている。また、英作文でも、場面に応じて書く英作文など、短答の正答率は市平均、全国平均と比べて差は見られない。 ●情報に基づいて書く英作文などの、思考力・判断力・表現力が問われる問題では、全国平均と比べて正答率が大きく下回っている。	□作文をするために必要な語彙を増やすために、単語や熟語を文章の中で使う練習を行う。まず、口頭練習をし、その後、書く練習を行う。 □教え合い活動を通して、自分が作文をする際に使える表現を増やすために、新出の文構造を使った構文をくり返し口頭練習することで定着を図る。 □英語に苦手意識をもつ生徒も多いため、ペアやグループでの活動を利用して、生徒同士で学び合う体制を作りながら授業を進める。
	3年 3技能「聞く」「読む」「書く」	○実際のコミュニケーションにおいて、音声聞いた情報を活用できる技能については全国平均と比べて正答率が上回る。 ○身近な話題について、必要な情報を読み取る問題では、全国平均と比べて正答率が上回る。 ●社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く問題では、全国平均と比べて正答率が大きく下回る。	□語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、繰り返し定着するまで練習する。 □身近な話題について、自分の考えとその理由を書くことができる機会を増やす。 □社会的な話題について、短い文を読み、要点を捉える練習を繰り返し行う。さらに、その内容について考えその理由を書くことを定期的に行う。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○3年生について、道徳の授業では、学級やグループで話し合ったりする活動の取り組みや、自分と違う意見について考えたりするのは楽しい、という肯定的な回答は全国の平均を大きく上回っている。 ○1, 2年生において「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」について肯定的な回答をした生徒が全国平均を大きく上回っている。 ●ICTの活用については1～3年生ともに、使用頻度が県平均、全国平均と比べて大きく下回っている。	□教員を対象としたICT機器活用した授業の校内研修の設定や、ICTを活用した授業の実践共有を行う。 □総合的な学習の時間だけでなく、いろいろな授業において、個人で思考する場合や学び合いの場面を効果的に取り入れ、探究的な学習を設定する。また、考える視点を明確にし、対話的で深い学びになるような授業づくりをする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○1, 2年生において「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」「勉強するときは集中して勉強している」について肯定的な回答をした生徒が全国平均を大きく上回っている。 ○3年生において「数学が得意」「数学が好き」「国語が好き」という回答は全国平均を大きく上回っている。 ●3年生について「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできるか」の回答は全国平均を下回った。 ●3年生において家庭学習の時間は全国平均を大きく下回っている。	□2年生は進んで家庭学習をしているのに対して、1年生は家の人に言われて勉強をしている傾向にあり、各教科で、家庭学習の課題を継続的に出したり、学習進度に合わせた学習内容を紹介したりして、生徒が自主的に学習に取り組む支援を行い、基礎学力の定着を図る。また、課題の内容の工夫に努める。 □家庭学習に対してはタブレットドリル等も活用し、生徒一人一人に合わせた学習内容が選択できるようにすることで、達成感を味わえるように工夫する。 □定期テスト前の学習計画表を活用したり、生活習慣の見直しを学校と家庭で連携して行ったりして、家庭学習時間の確保、学習の質の改善を図る。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○1, 2年生において、「困っている人を助けている」について肯定的な回答をした生徒が全国平均を大きく上回っている。 ○3年生において「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と肯定的な回答をした生徒が、全国平均を大きく上回っている。 ●「言葉を使ったパズルで遊ぶことがある」は全国平均を大きく下回った。	□学校・学年だより等を通じて、地域や保護者への情報発信を積極的に行う。また、地域学校運営理事会や学習公開日等でも、生徒会活動や部活動での生徒の様子を伝える。 □総合的な学習の時間や学校行事等を通じて、地域についてより深く学ぶことのできる学習活動を行う。 □生徒が地域で活動する機会をもち、地域の方に活動の様子を見ていただく。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立南中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【出雲市学力調査の結果】 ○1年生の国語の正答率は全国、出雲市の平均正答率を大きく上回る。 ○1年生の数学の正答率は全国、出雲市の平均正答率を大きく上回る。 ○2年生の国語の正答率は全国、出雲市の平均正答率を大きく上回る。 ○2年生の数学の正答率は全国、出雲市の平均正答率を大きく上回る。 ●2年生の英語の正答率は全国、出雲市の平均正答率と同程度である。 【全国学力調査の結果】 ○3年生の国語の正答率は全国、出雲市の平均正答率を大きく上回る。 ●3年生の数学の正答率は全国の平均正答率を下回る。、島根県の平均正答率と同程度である。 ●3年生の英語の平均IRTスコアは全国、島根県・出雲市を下回る。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○「文章の書き表し方に着目して、文章を整えている」については、全国を大きく上回る。資料から必要な情報を抽出し、条件に沿って整理して書く力や、情報を関連づけて記述する力は概ね身についている。 ●「読むこと」のうち、文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げることについては、全国を大きく下回る。発言の意図や心情の変化を、会話全体の流れを踏まえて読み取る必要があるため、一部分だけで判断したり、本文中の根拠をもって判断したりすることに課題がある。	○引き続き、資料を活用した読み取りや、条件を踏まえた記述問題に取り組む、根拠をもとにしてまとめる力を高める。 ○人物の発言や行動を根拠として心情の変化を読み取る学習の中で、何を根拠として考えたのか、本文中から説明してまとめる活動を取り入れる。また、複数の場面を関連づけて考えて読む活動を取り入れ、関連する理由を説明できるようにする。
	2年	○「書くこと」記述について、「自分の考えが伝わる文章になるよう工夫する」をねらいとする問題の正答率が全国を大きく上回る。グラフから必要な情報を読み取り、条件に沿って記述する力は、概ね身についている。 ●「書くこと」記述について、「読み手の立場に立って文章を整える」については、全国を大きく下回る。提示されている選択肢から適切なものを選ぶ問であるが、正答よりも誤答選択が多い。類似した選択文であり、正確に読み取って解答できていないことが原因であると考えられる。	○表やグラフなどの資料をもとに、必要な情報を整理し、条件に応じて自分の考えを簡潔に記述する活動を継続して行い、資料をもとにして自分の考えを説明できる力を高める。 ○本文や条件を根拠として、選択肢一つ一つを照合し、表現の違いによる伝わり方、内容が一致しているかどうかを吟味する活動を取り入れる。また、「なぜその選択肢が違うのか」についても、本文や条件をもとに説明する活動を取り入れる。
	3年	○言葉の特徴や使い方に関する事項(品詞・文脈に即した語句の使い方)についての正答率は全国を大きく上回っており、言葉の働き方についての理解は高い。語句の意味理解は概ね身についている。 ●「書くこと」のうち、文章の展開の意図を説明したものの選択について、全国平均を大きく下回る。部分的な表現や印象的な言葉を根拠に判断する傾向があり、文章構成や段落相互の関係を捉えながら読む指導が今後必要である。	○帯単元の漢字や語句テストを継続して行う。 ○新聞記事を活用し、段落の役割や筆者の主張と根拠を整理する活動を継続し、文章全体の構成や展開を捉えて読む力を高める。 ○段落ごとに内容の要約をしたり、気持ちの変化とできごとを図や表に整理したりする活動を取り入れる。活動の中で、自分の考えを他者に伝え、話し合う場を設定することで、文章全体を関連づけて読む力を育成する。
数学	1年	○「基礎」「活用」ともに全国を大きく上回る。領域別の正答率では「変化と関係」「データの活用」で全国を大きく上回る。問題の内容別正答率では「小数・分数の計算」「単位量あたりの大きさ」で全国を大きく上回る。 ●問題の内容別「文字と式」では全国を下回る。	○「学び合い」学習をととして、学習内容の定着と向上を図る。 ○タブレット学習などとおして、個々の学習への取組状況を把握し、個別に指導が必要な生徒への支援を行う。 ○確認テストを行い、基本的な内容の定着を図る。 ○「文字と式」については学び直しをしながら既習事項と関連付けて学習を進めていく。
	2年	○「基礎」「活用」ともに全国を大きく上回る。領域別の正答率では「図形」「データの活用」で全国を大きく上回る。問題の内容別正答率では「平面図形」「データの分布の傾向」で全国を大きく上回る。 ●問題の内容別「文字式」では全国を大きく下回る。	○「学び合い」学習をととして、学習内容の定着と向上を図る。 ○タブレット学習などとおして、個々の学習への取組状況を把握し、個別に指導が必要な生徒への支援を行う。 ○確認テストを行い、基本的な内容の定着を図る。 ○「文字式」については学び直しをしながら既習事項と関連付けて学習を進めていく。
	3年	○「知識・技能」の観点で全国をやや上回る。 ●「図形」領域で全国を大きく下回る。問題形式では「記述式」で全国を大きく下回る。個別の問題では「正の数と負の数を用いて変化の状況を表す」問題について、全国を大きく下回る。	○「学び合い」学習をととして、学習内容の定着と向上を図る。 ○タブレット学習などとおして、個々の学習への取組状況を把握し、個別に指導が必要な生徒への支援を行う。 ○確認テストを行い、基本的な内容の定着を図る。 ○「正負の数」については学び直しをしながら既習事項と関連付けて学習を進めていく。
英語	2年	○領域別では、「読むこと」が目標値を上回る。問題の内容別では、「語彙の知識・理解」「さまざまな英文の読み取り」が目標値を大きく上回る。 ●「基礎」が目標値をやや下回る。領域別では、「書くこと」が目標値を大きく下回る。問題の内容別では、「単語の並べかえによる英作文」「情報に基づいて書く英作文」が大きく下回る。	○帯活動としてのリスニング練習を継続し、聞く力をさらに伸ばす。 ○自学ノートや語句テストを継続し、語彙力をさらに伸ばす。 ○言語活動や問題演習をととして、文法事項の定着を図る。 ○既習表現を使った書く活動を増やし、文の語順を理解して正確に書けるようにし、場面に応じて書く、情報に基づいて書く、3文以上のまとまりのある文章を書く、ようにさまざまなパターンを取り入れ、書く力を伸ばす。
	3年 3技能 「読む」「書く」	○領域の「聞くこと」は全国・県と同程度である。 ●領域の「読むこと・書くこと」は全国・県・市を大きく下回る。「読むこと」では、目的に応じて必要な情報を読み取ったり、短い文章を読み、要点を捉えたりすることに課題がある。「書くこと」では、日常的な話題について自分の考えや気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。	○帯活動としてのリスニング練習を継続し、聞く力をさらに伸ばす。 ○短い文章を読む活動を取り入れ、必要な情報を読み取ったり、概要や要点を捉えたりするようにする。 ○自学ノートや語句テストをととして、語彙力の向上を図るとともに、言語活動や問題演習をととして、文法事項の定着を図る。 ○既習表現を使った書く活動を増やし、日常的な話題について、自分の考えや気持ち、その理由をまとまりのある文章で書くことができるようにする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「自分にはよいところがあると思う」という生徒の割合が、全国平均を大きく上回る。 ○●「将来の夢や目標をもっている」という生徒の割合が、全国平均を大きく上回る学年と下回る学年がある。 ○第3学年では、「授業や学校生活において、話し合い活動を通じて、友達のことを大切にし、互いに協力して課題解決に取り組んだり、自分の考えを深めたりする」という生徒の割合が、全国を大きく上回り、第1・2学年においても、「前の学年で、授業の後で授業の前と比べて自分の考えが深まったと感じる」という生徒の割合が市を大きく上回る。	○生徒同士で互いのよさを認め合う場面を増やしたり、生徒が頑張っている場面で教師が積極的に声かけを行ったりして、自己肯定感を高める。 ○職業調べ、職場体験学習等をととして、自分の将来の夢と自分の適性について考える機会とする。 ○今後も、日々の授業や学校生活において、生徒同士で話し合う場面をできるだけ多く設定し、多様な考えを受け入れたり、それによって自分の考えを深めたりすることの大切さを実感できるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「平日1日あたりに、スマートフォン、パソコン、タブレット、ゲーム、テレビ等にふれる時間」が、全国・県・市の平均を大きく下回る。 ●「学校の授業時間以外の、平日1日あたりの勉強時間」は、県を大きく上回るが、全国を大きく下回る。また、「土日など学校が休みの日の勉強時間」は、全国・県を大きく上回る。 ○「前の学年では、授業で学んだことを使って、家で同じような問題に取り組んだり、新しい問題に取り組んだりする家庭学習をしていた」という生徒の割合が、市を大きく上回る。	○平日の家庭での時間の使い方を考え、メディアにふれる時間と学習時間を見直し、学習を優先させる必要性に気づかせる。 ○習熟テストや定期テストの結果をもとに学習状況を振り返り、面談で今後の学習方法や目標を考えることで、学習への意識を高める。 ○各教科において、ワークやドリルパークなどを活用し、基礎基本の定着を図り、学んだことをアウトプットできるような課題に取り組ませる。また、自学ノートを活用し、どんな力をつけたかを自ら考え、工夫して家庭学習に取り組む習慣を身につけさせる。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「学校での悩みについて、親や家族と話す」という生徒の割合が、全国・県を大きく上回る。 ○「地域の行事に参加している」という生徒の割合が、全国を大きく上回る。 ○「地域や社会をよくするために何かしてみたい(何をしたらよいか、考えることがある)」という生徒の割合が、全国・県・市を大きく上回る。	○教育相談の機会に、生徒の悩みや困り感を把握し、必要に応じて家庭と共有する。 ○総合的な学習の時間で、地域の課題について考えたり、地域行事に参加して出店したりするなど、地域を盛り上げるための貢献活動を行っている。今後も校区のコミセンと連携を図りながら、3年間を見通した系統的な学習をととして、ふるさとを大切に思う心を育てていく。 ○道徳の授業等で地域や社会について考える題材を扱う。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立平田中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

1～3年生までほとんどの生徒が楽しく学校生活を送っている。
1、2年生では自尊感情も高い傾向にあり、親和的な集団として育っている。
学力は各教科ともに平均正答率で、全国平均とほぼ同程度であり、良好な状況である。
各教科ともに、上位層と下位層が多く、中位層の生徒が少ない。学力に差がある状況が見られ、上位層の学力をさらに伸ばさせていく取組、下位層の生徒のつまずきをつかみ個に応じた支援を進める必要がある。特に英語科では、上位層の生徒と下位層の生徒の学力の開きが大きく、基礎・基本をしっかりと身につけさせる取組の他、校区小学校の英語科の学習との連携を図る必要がある。
家庭学習にかける時間が全国と比べると少ない。特に3年生では全くないという生徒の割合が全国、県よりも高い。地域的に塾に通っている生徒も少なく、学校での指導が重要となる。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○全体の正答率は、全国平均、市平均をやや上回っている。 ○基礎では全国平均・市平均と同程度である。 ○活用では全国平均・市平均を上回っている。 ○観点別では、「話すこと・聞くこと」で全国平均、市平均と同程度である。 ○「我が国の言語文化に関する事項」では全国平均、市平均を大きく上回っている。	□基礎・基本を定着させるために小テストを実施する。 □文章を書く力を伸ばすために、スモールステップで作文課題を出す。 □得た知見を広げていくために様々な教材を利用する。 □知識を活用する力を伸ばすために、発表の機会を確保する。 □図書館を効果的に利用し、読む力を鍛える。
	2年	○全体の正答率は全国平均を大きく上回り、市平均と同程度である。 ○基礎では全国平均を上回るが、活用では同程度である。 ○観点別では、「読むこと」で全国平均、市平均を上回り、「書くこと」で全国平均、県平均と同程度である。	□基礎・基本を定着させるために小テストを実施する。 □文章を書く力を伸ばすために、鑑賞文や意見文などの小作文に取り組ませる。 □さまざまな情報に触れて自分の考えを深めさせるために単元の内容に関連した話題を提供する。「国語通信」の発行。
	3年	○全体の正答率は県平均を上回り、全国平均、市平均と同程度である。 ○「知識及び技能」において、全国平均、県平均を上回り、「思考力・判断力・表現力等」においては、全国平均、県平均と同程度である。	□基礎・基本を定着させるために小テストを実施する。 □文章を正確に読み取る力を伸ばすために、要旨をまとめさせたり、重要な語句の抜き出しをさせたりする。 □文法に関して既習事項を繰り返し指導し、知識の定着を図る。
数学	1年	○全体の正答率は市町村平均と同程度、全国平均をやや上回っていた。 ○「知識・技能」は全国平均を上回る一方で、「思考・判断・表現」は全国平均と同程度であった。 ●問題の内容別で見ると、「平面図形」で全国平均をやや下回り、市町村平均を大きく下回っていた。	□小テストを実施し、学習内容の定着を図る。 □単元の終末では、基本的な計算だけでなく、思考する問題演習に取り組む時間を確保する。 □「平面図形」や「分数」に関する内容は、既習事項を丁寧に確認し、概念の構築を図る。
	2年	市平均、全国平均とほぼ同程度であった。 ○領域別正答率をみると「図形」「データの分析」に関して、市平均、全国平均を上回っている。 ●「文字式」「比例・反比例」は市、全国平均を下回っている。 ●思考・判断・能力を問う問題は市、全国平均を下回った。	□小テストを実施し、学習内容の定着を図る。 □単元の終末では、基本的な計算だけでなく、思考する問題演習に取り組む時間を確保する。
	3年	全国、県の平均を上回った。 ○A「数と式」、B「図形」、D「データの活用」は、概ね県、全国の平均を上回った。 ○知識・技能を問う問題の多くは、全国、県の平均を上回った。 ●C「関数」は、県、全国を下回った問題が1つあった。	□小テストを実施し、学習内容の定着を図る。 □家庭学習に継続的に取り組めるような効果的な課題を出す。
英語	2年	●全体の正答率は全国平均と同程度、市の平均をやや下回っていた。 ●基礎の問題では、全国と市の平均からやや下回り、活用の問題では、全国と市の平均と同程度だった。 ○語法の知識問題は全国の平均から大きく上回っていた。 ●並べ替え英作文や場面に基づく英作文は大きく下回っていた。	□文法の学習をしたら、毎度英作文を書く時間を設ける。 □Unit Activityの活動を取り入れ、単元のまとめで自分の考えを英語で作文できるような授業を実施する。 □単語テストを継続的にし、単語力を身につけさせる。
	3年 3技能 「聞く」 「読む」 「書く」	○全体の正答率は県平均を大きく上回り、全国平均と同程度であった。 ○英文から必要な情報を読み取り、ウェブサイトの情報と照らし合わせて判断する問題で、高い正答率が見られた。 ●インターネットの使用について、読んだ内容をもとに自分の考えと理由を書く問題の正答率が全国平均を下回った。	□様々なテーマについて、自分の意見とその理由をペアで伝え合い、その後英語で書く活動を継続的に取り入れ、考えを整理して表現する力の育成を図る。 □計画的に単語テストを行い、単語力の向上を図る。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	学習活動調査から、各学年とも「話し合いで自分の考えを積極的に話している。」という生徒の割合が高いことが分かる。対話的・主体的な学びに向けての取組の成果が見られる。知識・技能の習得において上位層と下位層との格差が大きいので、主体的な学びを支える基礎・基本を定着させる指導や支援が必要となる。	□学びを支える学習規律の徹底。 □各教科における基礎・基本の定着を図る取組。 □ペア学習、グループ討議の場の設定。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	家庭学習にかける時間が短い。3年生では全くないという生徒の割合が全国、県よりも高い。本校では、各教科で授業と家庭学習のサイクル作りを進めているが、意欲の喚起を含めて学習習慣の身に付いていない生徒への支援が必要であると考え。	□学習ガイダンスによる学び方の指導。 □定期テスト、習熟度テスト等の機会を捉えての学習時間調べと継続的な指導。 □自主学習強化週間の設定。 □各教科での家庭学習の課題の提示。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	地域の行事に参加していると答えた生徒の割合が全国よりも高い。また、ボランティア活動などにも継続的に参加している生徒もいる。地域にも支持的な風土があり、さまざまな教育活動に協力をいただいている。	□地域と連携を図ったふるさと教育、キャリア教育の推進。 □地域の行事、ボランティア活動等への参加の奨励。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立向陽中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1年生の国語は、市、全国の平均正答率をやや上回りました。
 ●1年生の数学は、市、全国の平均正答率と同程度でした。
 ●2年生の国語は、市の平均正答率を下回りました。全国の平均正答率をやや下回りました。
 ●2年生の数学は、市、全国の平均正答率を大きく下回りました。
 ●2年生の英語は、市、全国の平均正答率を大きく下回りました。
 ●3年生の国語は、市の平均正答率をやや下回りました。県、全国の平均正答率と同程度でした。
 ●3年生の数学は、市、県、全国の平均正答率を大きく下回りました。
 ●3年生の英語は、市、県、全国のIRTスコアを下回りました。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○教科の正答率は、市平均・全国平均を上回っています。「情報の扱い方に関する事項」は、市平均・全国平均を大きく上回っています。 ●「文法・語句に関する事項」は、市平均・全国平均を下回っています。	□機会をとらえて文法単元の復習をする時間を設け、内容の定着を図ります。
	2年	○「話し合いの内容を聞き取る」「漢字を読む」は市平均・全国平均と同程度となっています。「漢字を書く」は市平均と同程度、全国平均を大きく上回っています。 ●「語句に関する事項」「文章を書く」は市平均・全国平均を大きく下回っています。	□「語句に関する事項」の古典については、歴史的仮名遣いに注意して音読する機会を多く取り入れます。 □機会をとらえて条件付きの記述問題に取り組ませることで、文章を正確に読み取り条件に沿って表現する力を育成します。
	3年	○無回答率がどの問題に対しても、全国平均より低いです。 ●記述式の解答において、正答の条件を満たさないで解答している率が全国平均より大きく下回っています。	□機会をとらえて条件付きの記述問題に取り組ませることで、文章を正確に読み取り条件に沿って表現する力を育成します。 □教師が記述を添削し、条件を満たした記述ができるよう指導します。 □手本となる記述例を示すことで望ましい記述のイメージをもたせ、表現力の向上を図ります。
数学	1年	○無回答率がどの問題に対しても、全国平均より低い。図形の問題について、すべての問題に対して目標値以上となっています。 ●約数や比の問題など、倍数に関しての問題に対して正答率が低いです。	□小数・分数、文字式など、計算の復習を取り入れながら学習を進めていきます。 □単元末やテスト前など機会を捉え、定期的に問題演習を行います。
	2年	○平面図形の内容で「平行移動における移動の距離についての理解」と「ある模様の正三角形を回転移動してできる模様を選ぶこと」は、目標値を上回っています。 ●「1次方程式の立式」の無回答率や「平面図形の移動の方法を説明する」問題の誤答率が高いです。	□自分で問題文を読み内容を理解する時間や、自分の考えを説明する場を設定することで、読解力や表現力を伸ばします。
	3年	○無回答率がどの問題に対しても、全国平均より低いです。 ●「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の領域で、全国平均を大きく下回っています。	□授業の開始時に復習問題に取り組むことで、特に基礎的・基本的な力を伸ばします。
英語	2年	○「長文の読み取り」「単語の並びかえによる英作文」は全国平均と同程度となっています。 ●3技能において、いずれも全国平均を大きく下回る。	□単語のスペルや基本的な英文を覚えていない可能性があるため、単語テストや英文を書かせるなどを行い、基礎的・基本的な力を伸ばします。
	3年 3技能 「聞く」 「読む」 「書く」	○多くの問題において、無回答率が全国平均より低いです。 ○聞くことの問題のいくつかで島根県平均、全国平均と同程度となっています。 ●平均IRTスコアは、県平均、全国平均を下回っています。	□授業の開始時に単語や英文の復習テストを行い、基礎的・基本的な力の定着に務めます。 □やり取りのもとに英作文に取り組むことで、自己表現に関わる力を伸ばします。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○学級で発言しやすい温かい人間関係を築けており、学校で自分は認められていると感じている生徒が多いです。 ●「話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている」と肯定的に回答した割合が高い一方で、「話し合いで、自分の考えを積極的に話している」と肯定的に回答した割合は低いです。	□生徒各自の意見を網羅的に発表し合うだけでなく、集団での話し合いによって、何らかの結論を導き出すような学習展開を工夫し、解決に向けた活動に参加している実感が伴うよう支援していきます。 □考える視点を明示し、個人で考える時間を確保した後に話し合い活動をもつなど、一人一人の思いや考えを伝えられるように工夫します。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○計画的に学習をしたり、家の人に言われなくても進んで学習をしたっている生徒が多いです。また、勉強をする時には集中をしていると回答している生徒も多いです。 ●全国や県の平均以上の学習時間が見られるものの、各教科の学力調査の結果は全国や県の平均正答率を下回っています。 ●分からない点を調べるなどして自分で解決しようとする回答した生徒の割合が低いです。	□ワークシートの穴埋めや、反復練習のノート記入にとどまらず、具体的な問題解決や自分で解答を導く内容の課題に取り組むことで、学習の質の改善を図ります。 □見通しをもって学習する習慣をつけることができるよう指導していきます。また、課題の出し方を工夫して基礎的、基本的な学習の積み重ねを大切に、自学ノートでの毎日の家庭学習を今後も継続していきます。 □ICTや辞書等を活用する機会を増やし、家庭でも自分で活用できるようにします。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○夕食をきちんと食べている生徒が100%であり、家族と夕食を食べている生徒、学校での出来事を家の人に話している生徒の割合が高いです。 ○「自分が住んでいる地域が好きである」と肯定的な回答をしている生徒が多いです。 ●「新聞の記事を読んでいる」と回答した生徒の割合が低いです。	□基本的な生活習慣が整うよう継続して指導し、家庭にも情報発信をしていきます。 □総合的な学習の時間を活用し、地域とのつながりを深めるとともに、地域の行事等に積極的に参加するよう、声かけをしていきます。 □新聞を図書室等に置き、生徒の目に触れるような工夫をしています。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立佐田中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

(学力調査) 【1年生】○国語の平均正答率は全国、市と比べ大きく下回っており、数学の平均正答率は全国より下回り、市より大きく下回っている。 ●国語の領域別正答率では、特に「書くこと」が大きく下回っている。 【2年生】○国語、英語の平均正答率は全国、市と比べ大きく上回っている。数学は、全国、市より上回っている。 【3年生】○国語の平均正答率は全国、県と比べ上回っている。英語のIRTスコアは全国、県より上回っている。 ●数学は全国、県より大きく下回っている。 (学習状況調査) ○「自分は、友達(先生、家の人)から認められていると思う」という項目について、肯定的に答えた生徒が全国とくらべ上回っている。 ○「地域が好きである」の項目に肯定的に回答している生徒の割合が多く、中でも「とてもあてはまる」と答えている生徒の割合が全国に比べ大きい。 ○「自分には良いところがある」という項目について、「とてもあてはまる」と答えた生徒の割合が全国と比べて、1年生は大きく上回っている。	
---	--

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○情報の扱い方に関する事項については、市、全国ともに大きく上回っている。 ●領域別正答率では、情報の扱い方に関する事項以外は市・全国平均正答率を下回っている。特に、書くことについては大きく下回っている。 ●問題別に見ると「説明的な文章の内容を読み取る」以外は市・全国ともに下回っている。特に、書くことについては大きく下回っている。	□「書くこと」について意欲があまり高くないのが授業を通して感じるところである。授業の中で、相手と目的をはっきりとさせ、正しく整った字を書くことの必要感と、文を書くことの抵抗感を減らしていきたい。
	2年	○領域別正答率では、話すこと・聞くこと以外はすべての項目で市、全国ともに大きく上回っている。 ○問題の内容正答率に関しても、話し合いの内容を読み取る、漢字を読む以外の項目で市・全国ともに大きく上回っている。 ○全体の教科の正答率では、市、全国ともに大きく上回っている。	□1年生の頃より、相手と目的を意識させながら「書くこと」を大切に、表現活動を行ってきた。今後は、即時に考えを作り述べる音声言語でのやりとりを授業の中で取り入れ、話すこと・聞くことの領域の力をつけていきたい。
	3年	○全体的には、県・全国ともに上回っている。 ○単語の識別に関しては県・全国ともに大きく上回っている。 ●話し合いの中で、意見を考えたり、適切なものを選ぶものについては県・全国ともに下回っている。 ●読むことに関しては、県・全国ともに下回っている。 ●擬態語・擬音語の特徴についても県・全国よりも大きく下回っている。	□授業の最初に語彙にまつわる学習を取り入れる。 □話し合いを取り上げたり、意見交流を音声言語で行う機会を増やす。 □言葉の学習についてはドリルパークを効果的に取り入れ、語彙の量を増やすとともに、決まりきった慣用句などの表現などに興味・関心をもたせるようにする。
数学	1年	○「整数の性質」「グラフの読み取り」の問題では、市・全国の平均正答率を上回った。 ●「平面図形」の問題では、市・全国の平均正答率を大きく下回った。 ●「四角形の内角の大きさ」を求めることの正答率が約1割であった。	□「平面図形」の内容の理解度を高めるために、ICTなどの視覚支援を行い、タブレット等も使いながら視覚的に分かりやすく学習させる。 □小テストを継続的に実施することで、復習の機会を増やす。
	2年	○多くの領域で、市・全国の平均正答率を上回っており、特に「データの活用」は、市・全国の平均正答率を大きく上回った。 ○累積度数や相対度数についての正答率が高かった。 ●「比例の式からグラフをかく」の正答率が約3割であった。 ●図形領域の説明する問題の正答率が、全国の平均正答率を大きく下回った。	□学習内容を定着させるために、補充学習や小テストを継続して行う。特に関数についての復習を重点的に行う。 □授業者からの説明を聞く場面とグループ活動など生徒同士で対話によって学ぶ場面を意図的に設定し、生徒の説明する力を高める。
	3年	○数と式の領域の式を示す問題については、全国・県の平均正答率を上回った。 ○無回答の問題の割合が全国・県と比べて少ない。 ●全体的に、平均回答率が県、全国と比べて下回っている。 ●特にデータ活用の領域の正答率が低い。	□基礎・基本の定着のために、小テストを継続して行うとともに、1、2年生での既習事項についても、小テストに盛り込んだり授業でも復習する。 □それぞれの領域の授業の最初で、1、2年生での内容に触れ、内容の繋がりに意識しながら関連づけて新しい内容に入る。 □本校の強みである複数教員による指導を更に充実させ、個々の問題解決に向けてその場で声をかけるようにする。
英語	2年	○教科の正答率は、市、全国の平均を大きく上回っている。 ○領域別では「聞くこと」以外の「読むこと」「書くこと」で正答率が市、全国と比べて上回っている。 ●問題の内容別では「リスニング(対話文の応答)」の分野が全国より、大きく下回っている。	□英語の質問に即答したり、2文で答えたりするような活動を取り入れ、対話のリアクションややり取りの練習をする。 □対話したことを書いてみる活動をして、英語の表現や語彙力をつける。
	3年 3技能 「聞く」 「読む」 「書く」	○全体的には、県、市の平均IRTスコアを上回った。 ○英文を聞いたり、読んだりして概要をとらえる問題の正答率が高かった。 ●語彙、文法などの知識を実際のコミュニケーションに活用する力を問う問題の正答率が県、全国の平均より下回っている。 ●ある程度の文量のある英文を書くような記述式の問題に対する無解答率が高い。	□学んだ語彙や文法を用いてペアやグループでコミュニケーションを取る活動を意識して取り入れる。 □ALTが作成する英語の掲示板に生徒が参加できるコーナーを作り、楽しみながらALTと話ができるような場面を設ける。 □まとまりのある英文を書く活動や宿題を計画的に取り入れる。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○各教科の授業では、分からないことがあれば先生に質問をしている生徒が、全国に比べ多い。 ○各教科の授業について、話を聞く、宿題をする、テストの答案の見直しをするなど基本的な学習に向かう姿勢が定着している生徒が多い。 ●文章や表などを正確に読み取り、根拠を持って説明したりすることに消極的になっている生徒が多い。	□前時の学習内容をペアで説明し合うなどして、基礎基本の定着を図る。 □グラフや表などと文章を統合的に読みとる力をつけるために、資料からそれが意味することを考えたり、説明したりする機会や、既習内容をモデル化したものを自分の言葉で説明したり、文章化する機会を積極的に設ける。 □「書くこと」の力をつけるために、相手意識と目的意識をはっきりとさせ、継続して書かせる活動を行う。また、書字の速さ、綺麗さに課題が見られる生徒が多いので、友達の手書きしたものを見る観点として加えて、学びの基礎となる書く力を育む。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○授業時間以外、また、土日の勉強の時間は、県、全国の勉強時間より大きく上回っている。(3年) ●分からないことがあったときに、自分で考え工夫することができている生徒が、県、国に比べ少ない。(3年) ○どの授業も落ち着いて取り組んでおり、学習内容を理解しているので宿題に主体的に取り組むことができています。(2年) ●英検・新聞・パズルゲームなど主体的に学ぶ項目の数値が低くなっている。(2年) ●参考書や辞書を使って学習する機会が少ない。(1年)	□時間をかけて“作業”としての勉強にならないよう、難易度が選べたり、自分で内容を決める課題を宿題にする。(3年) □予習の学び方を紹介する。 □新聞記事を活用したスピーチや、教科書以外でも力を付けられるものを紹介する。(2年) □アプリやICTを用いた学習ゲームを紹介する。(2年) □自学ノートで学習する内容を主体的に選択させる。内容のバリエーションを増やす試みをする。自学ノートの公開日を作る。(1年)
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域の行事に参加している生徒が多い。困っている人の手助けをしているという項目が100%だった。(2年) ●地域や社会を良くするために考えている生徒が少なく、興味関心の幅が狭く、視野が広がっていない。(2年) ○地域の行事に参加する生徒が多い。地域に愛されている。地域に愛着がある。(1年) ○人の役に立つとなりたい、社会をよくするために何かしてみたいと思っている生徒が全国に比べ多い。(3年)	□地域に根差したふるさと学習を今後も継続し、地域の理解を深め、地域のために何ができるか考える機会を設ける。(3年) □新聞や国際情勢、島根県、身近な話題、英語でのスピーチ等、話題や興味関心を広げるようなスピーチ活動をする。(2年) □自分の放課後の時間をデザインする。自分の生活をコントロールする。(1年)

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立多伎中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【1年生】	平均正答率は、国語、数学ともに市・全国を大きく上回る。
【2年生】	平均正答率は、国語、数学ともに市・全国を大きく上回る。英語は市・全国を大きく下回る。
【3年生】	平均正答率は、国語、数学、英語ですべて県・全国を上回る。特に、国語、数学は大きく上回る。

すべての学年に共通して、本や新聞を読む習慣が少ない。また、分からないことを自分から辞書等を使って調べたり、自ら知識を広げたりするような学習が少ない傾向にあり、主体的に学習に取り組む基本的な姿勢については改善する必要がある。家庭での学習状況については、毎日2時間以上メディアを使用している生徒の割合が、1年生で50%、2年生で64%と、家庭での学習時間が確保できにくい様子が見受けられたが、昨年から改善傾向にある。どの学年においても、自分たちの住む地域に対して愛着がある生徒が多い傾向にある。地域の行事への参加状況については、1年生は93.8%と非常に高い参加率だが、部活動の影響が2年生は52.0%と地域活動への関わりが薄くなる傾向がある。一方で、「困っている人の手助けをしている」という項目では、1年生が93.8%（全国69.7%）、2年生が92.0%（全国65.5%）と、他者を思いやる意識は非常に高い。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○平均正答率が、全国及び市の結果を大きく上回る。 ○問題の領域別において、どの領域も平均正答率が全国・市を大きく上回る。 ●目的に応じて文章の情報を整理することや、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように文章を工夫して書くこと。	□複数の文章や図表から必要な情報を取り出す問題を授業やテスト等で扱い、複数の資料のつながりや要点を丁寧に確認する。 □自分の考えを書くだけでなく、表現を工夫して書く活動を取り入れる。その際に表現を工夫する方法を提示する。
	2年	○平均正答率が、全国及び市の結果を大きく上回る。 ○問題の領域別において、どの領域も平均正答率が全国・市を大きく上回る。 ●「文節の関係」についての問題の平均正答率が目標値に届いていない。	□そのときの授業だけでなく、定期的に文法の確認を行い、知識の定着を図る。
	3年	○平均正答率が、全国及び県の結果を大きく上回る。 ○どの領域においても平均正答率が全国・県を上回る。 ●必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること。	□ペアやグループで話し合い活動をするときに、話をただ聞くだけでなく、質問をして内容を理解していく習慣づけを図る。
数学	1年	○平均正答率が、全国および市を大きく上回る。 ○「図形」「変化と関係」「データの活用」領域の平均正答率が、市・全国を大きく上回る。 ●文字に数を代入して値を求めること	□タブレット端末等を活用した反復学習により、基礎的・基本的な技能の定着を図る。 □数学における文字について、具体的な数値で考えたり図表を活用したりして理解を促し、概念形成を図る。
	2年	○平均正答率が、全国および市を大きく上回る。 ○「図形」「関数」「データの活用」領域の平均正答率が、市・全国を大きく上回る。 ●「正の数・負の数」「1次方程式」などの基礎的な計算や公式の理解	□タブレット端末等を活用した反復学習により、基礎的・基本的な技能の定着を図る。 □数学的な用語や表現を適切に用いて説明する活動をペア学習等で意図的に取り入れ、記述力の向上を図る
	3年	○平均正答率が、全国および県を大きく上回る。 ○すべての領域、観点、問題形式の平均正答率が、全国および県を大きく上回る。 ●文字を使って数量を表すことや、文字式を利用して説明すること	□タブレット端末等を活用した反復学習により、基礎的・基本的な技能の定着を図る。 □数学における文字について、具体的な数値で考えたり図表を活用したりして理解を促し、概念形成を図る。
英語	2年	●平均正答率が全国、市より大きく下回っている。 ○「リスニング」、「単語の並べかえによる英作文」で、基本的な問題は概ねできていて、目標値を上回っている。 ●英作文の中でも、与えられた情報をもとに自分の考えを書いたりするような思考力や応用力が必要な問題や「長文の読み取り」は目標値を大きく下回っており、課題である。	□毎時間の授業で既習事項の復習も行いながら、基礎・基本の定着を図る。 □生徒が、よりよく表現するために、正確さをより高める指導をしていく。 □生徒が表現活動をするときに、場面設定をしっかりと工夫し、思考力を高められるような教材を作成し、授業に取り入れる。
	3年 3技能 「聞く」 「読む」 「書く」	○全国および県のIRTスコアを上回っている。 ○日常的な話題に関して、自分の考えなどを整理して書く力がついてきている。 ●社会的な話題を読み、要点を押さえて、自分の考えをまとめた理由を書いたりする応用力を定着させることは課題である。	□生徒が、よりよく表現するために、正確さをより高める指導をしていく。 □生徒が表現活動をするときに、場面設定をしっかりと工夫し、思考力を高められるような教材を作成し、授業に取り入れる。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	(1年)「授業中、自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたりして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていましたか」では肯定的な意見が約70%であった。これは市の平均よりやや低い。	(1年)授業の中で、「主体性」と「仲間と共に課題を解決する力」をつけさせる取組を工夫しておこなう。ペアワーク、グループワークの取組を工夫する。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	(1年)「本を読んでいる」「新聞記事を読んでいる」「勉強に辞書を利用している」の割合が全国平均より低く、自分で分からないことを調べたり、知識を広げるような学習ができていない傾向がうかがえる。	(1年)本や新聞記事などを読む機会、宿題を工夫して出す。分からないことを調べる方法(辞書のひき方、検索の仕方など)を指導する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	(1年)「自分は家の人から認められている」、「自分が住んでいる地域が好きである」、「地域の行事に参加している」と回答する割合がかなり高く、家庭や地域から支えられ良好な環境のもと生活や学習に取り組んでいる。	(1年)総合的な学習の時間、学校行事、ボランティア活動等を通して地域と積極的に関わるように指導し、ふるさとを愛する生徒の育成に努める。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立湖陵中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 1年生: 国語の「情報の扱い方」「話す・聞く」、数学の「数と計算」「変化と関係」が目標値を上回る。
- 1年生: 国語の説明的文章の読解力に課題が見られる。
- 2年生: 国語の「情報の扱い方」や「話すこと・聞くこと」が目標値を上回り、数学の「関数」も目標値を上回る。英語のリスニングの一部や英作文は目標値と同程度である。
- 2年生: 国語の古典、数学の「数と式」「図形」「データの活用」、英語の全領域(基礎知識・対話文応答・英作文)で目標値を大きく下回る。
- 3年生: 国語の読解・記述、数学の「数と式」・論理的説明、英語のリスニング(概要把握)・リーディング(情報抽出)で全国・県を上回る。
- 3年生: 国語の発言意図の理解・語彙、英語のまとまりのある英作文・知識の活用に関する課題がある。
- 全学年: 学校生活への満足感・自己肯定感が高く、規律意識や学習態度、復習習慣、地域貢献意欲が良好である。
- 全学年: ICTを活用した情報整理や授業で学習した内容を振り返る力が伸びている。
- 全学年: 授業での主体的な発言や予習の習慣が不足している。
- 全学年: 平日の家庭学習時間の不足、メディアの利用時間の長さ、活字離れ、家庭での生活習慣(睡眠・スマホの利用ルール)の未定着に課題がある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○領域別では「情報の扱い方に関する事項」が目標値を大きく上回り、インタビューの聞き取りや情報同士の関係付け、報告文の作成に関する正答率が高い。 ●領域別では「言葉の特徴や使い方に関する事項」が目標値を下回り、文法・語句や説明的文章の読解、連用修飾語の理解、構成把握や推察に関する正答率が低い。	□文法事項の定着に向け、小テスト等を活用し繰り返し復習を行う。 □説明的な文章の読解に向け、接続語等の文章構成に着目した学習を展開し、全体の構成把握を徹底させる。 □ペアワーク等を意図的に導入し、自分の考えを話す機会を増やす。
	2年	○「情報の扱い方に関する事項」や「話すこと・聞くこと」が目標値を大きく上回る。インタビューの聞き取りや漢字の書き取り、話し合いで互いの発言を結びつけて考えをまとめる力、表現の工夫に関する正答率が高い。 ●「我が国の言語文化に関する事項」や「文法・語句」が目標値を大きく下回る。歴史的仮名遣いや単語の理解、読み手の立場に立った思考に関する正答率が低い。	□漢字の強みを活かしつつ、「歴史的仮名遣い」「単語」「文節」の定着を図るため、小テスト等を活用し繰り返し確認する機会を設ける。 □日常の授業で古文や文法を扱う際にも、1年次で学んだ既習事項を振り返る学び直しの時間を設定する。
	3年	○「読むこと」における思考・判断・表現を問う問題や、記述式問題の平均正答率が全国及び県を上回る。 ●話し合いにおける発言の役割や意図の理解、および文脈に応じた適切な語彙の選択・把握に課題が見られる。	□簡単な会話文から文章を抜き出し、文脈上の役割や意図を確認する学習を取り入れるとともに、対話活動に生かす。 □類義語や対義語の比較などを通して、言葉の意味や使い分けへの関心を高め、語彙力を身につけさせる。
数学	1年	○領域別では「数と計算」や「変化と関係」が目標値を上回り、文字と式、面積・体積、比例関係や割引計算に関する正答率が高い。 ●領域別では「データの活用」が目標値を大きく下回り、グラフの読み取り、平面図形、平均や場合の数に関する正答率が低い。また無回答率が高く、文章の読み取りや説明する力に課題が見られる。	□授業冒頭に短時間の計算練習を行い、処理速度向上とテスト時の時間不足解消、基礎計算力の定着を図る。 □毎時間的小テストによる復習の徹底や、複数の教員による指導・デジタルコンテンツの活用、放課後学習会の実施により手厚く支援する。 □日常的に数学的活用問題を取り扱い、考えを図や言葉で表現する活動を通して記述力を養う。
	2年	○「関数(比例・反比例)」が目標値を上回る。比例のグラフ描画や適切なグラフの選択に関する正答率が高い。 ●総合正答率は市平均を大きく下回る。領域別では「数と式」「図形」「データの活用」が目標値を大きく下回り、1次方程式の立式や図形の性質、データの傾向の説明において無回答率が高く、文章の読み取りや記述・説明する力に課題が見られる。	□前時の内容を次時に簡単な小テストを実施し繰り返し復習し、基礎計算の定着を図っていく。 □デジタルコンテンツの活用や複数の教員による指導の連携を進め、テスト前の放課後学習会等で理解不十分な生徒への支援を強化する。 □日頃から数学的活用問題に取り組みせながら文章をしっかり読ませ、その上で自分の考えを論理的に書き、説明する力を高めていく。
	3年	○教科全体の平均正答率は全国及び市と同程度であり、県をやや上回る。 ○「数と式」の領域や、文字式を用いた説明・予想、思考プロセスやデータの傾向を比較して説明する問題の平均正答率が全国及び県を上回る。 ●「図形」の領域や、図形の性質の根拠を示す問題、確率を求める問題、解法のプロセスを記述する問題の平均正答率が全国及び県を下回る。	□既習事項(1・2年)の振り返りや具体物・視覚教材を活用した授業展開により、図形領域の理解と定着を図る。 □前時の内容の小テストを実施し、繰り返し復習していく。授業ではデジタル教科書・タブレットの活用・TTとの連携、テスト前には放課後学習会を行い、支援を行う。 □引き続き日頃から数学的活用のある問題に取り組みせ、自分の考えを図や言葉で表現したり、互いの考えを伝え合ったりする機会を設定する。
英語	2年	○リスニングの「さまざまな英文の聞き取り」や「3文以上の英作文」が目標値と同程度である。 ●総合正答率は市平均を大きく下回る。基礎的な問題や知識・技能に関する問題で目標値を大きく下回り、特に対話文の応答、リスニングや情報に基づく英作文に関する正答率が低い。	□語彙力の確実な定着のため、単語テストを単元ごとに週1回程度実施する。 □文法理解の向上のため、既習事項の復習を授業に取り入れ、繰り返し確認することで基礎学力の定着を図る。 □質問に対して応答する英作文を週1回程度行い、自分の考えや気持ちを表現する力を養う。 □外国語指導助手との対話時間を増やし、生の英語を聞く機会を確保して聞く力を養う。
	3年 3技能 「聞く」 「読む」 「書く」	○「聞くこと」において日常的話題の概要を捉える問題や、「読むこと」において必要な情報を読み取る問題の平均正答率が全国及び県を大きく上回る。 ●「書くこと」において、自分の考えや気持ちを整理してまとまりのある文章を書くことや、文法等の知識を実際のコミュニケーションで活用することに課題が見られる。	□短時間での英語応答や語彙テストにより基礎学力を定着させ、思考ツールで構成を整理して英文を書く練習を行う。 □基本文型の反復練習やペアでの記述・相互評価を通じ、語彙や文法知識を実際の場面で表現・活用する技能を高める。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○1・2年で受容的な授業態度や要点を意識した学習が定着している。 ○3年ではICT活用や授業の振り返りの習慣化が進んでいる。 ●1・2年は主体的な発言・質問や予習、解法プロセスの見直し、辞書の活用が不足している。 ●3年は既習事項の活用や筋道を立てて思考・表現する力に課題が見られる。	□授業でのペアワークや相互対話を導入して発言・質問しやすい環境を整え、毎時間終わりの振り返りの徹底により、自主的な学習習慣を育てる。 □授業冒頭での短時間学習を通して処理速度と基礎学力を養い、デジタル教科書やタブレット等のICT機器を活用した意見共有・相互評価を活性化させる。 □全教科で自分の考えを説明・発表する言語活動を推進し、思考力・表現力を高める。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○1・2年で計画的な学習やテスト見直し等、高い向上心と自主的な学習姿勢が見られる。 ○3年では家庭学習でのICT活用や情報整理力が大きく向上している。 ●1・2年は予習の習慣や辞書の活用率が低く、読書・メディアを通じた探究活動に課題がある。 ●全学年で、平日の家庭学習不足やスマホ・ゲームの長時間利用に課題が見られる。	□事前の見直しを持たせる工夫やICTを活用し予習を習慣化させる。 □見直し課題の工夫やドリル・自主学習ノート等を活用し、家庭学習の定着と1日1時間以上の学習時間の確保を図る。 □図書室の利用促進や啓発活動を通して読書・新聞・教育番組等の日常的な視聴習慣を促し、知的好奇心と探究心を高める。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○全学年で高い自己肯定感をもっている。 ○1・2年では良好な家庭環境を基盤に手伝いや地域行事参加等、貢献意識の高さが見られる。 ●1・2年は新聞読誌をはじめ活字文化や社会との関わりに課題がある。 ●3年は家庭でのスマホ利用ルールの未定着や夜間利用に伴う就寝時刻の遅れが見られ、生活習慣の立て直しに課題が見られる。	□学習活動に新聞を活用した課題や地域教材等を導入し、社会への関心と読解力・情報収集能力を伸ばす。 □地域人材を招いたキャリア教育等を通して社会との繋がりを深め、ボランティア紹介や行事参加の呼び掛け等から貢献意識や責任感を高める。 □家庭と連携したスマホ利用ルールの確立やノーメディアの推進により、適切な睡眠と生活リズムを整える。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大社中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- (1)全国調査(3年)における授業以外の学習時間とSNSや動画の視聴時間との関わりについて
 ●学習時間は、平日1時間以上学習している割合が県・全国を大きく下回っている。
 ○一方で、SNSや動画の視聴時間は県・全国をやや下回っている。
- (2)3年生の学力向上について 2年次の市学力調査と3年次の全国学力調査を比較すると
 ○国語においては、2年生のときの平均は、市・全国よりも低かったが、3年の結果はともに平均よりも高い。
 ●数学、英語においては、市・全国よりも低い、差が縮まっている。
- (3)2年生の学力調査の結果(国語・数学・英語)について
 ●3教科ともに市・全国との比較において昨年よりも下回り、差が著しく大きくなっている。
 ●意識調査からは、3教科とも、「復習している」ことは全国とほぼ同程度であるが、「予習をしている」と「分からないことは質問している」ことが大きく下回っている。
- (4)1年生の学力調査(国語・数学)について
 ●国語は、市・全国とはともにやや下回る結果である。
 ○数学は、市とは同程度ながら全国を大きく上回る結果である。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	●教科全体の正答率は全国平均、市町村平均を下回る結果となった。 ●領域別正答率では、「文法・語句に関する事項」や「文章を書く」の領域が全国平均、市町村平均を大きく下回った。 ○「漢字を書く」や「文学的な文章の内容を読み取る」については、全国平均や市町村平均を上回った。	□日々の授業で文章を書く機会を定期的に設け、自分の考えが伝わる文章を書く力を育てる。 □文章を読み取ったり、書いたりする活動の中で、文法や語句にも目を向けた指導を行い、文法や語句についての知識を養う。
	2年	●正答率が全国、市ともに大きく下回っている。領域別・内容別のどの分析項目においても国・市よりも低い。特に、記述式問題では無回答も多い。 ●学習への意識でも、予習や復習、比べたり気持ちを考えたりしながら読むことの結果が大きく下回っている。 ○主語・述語を押さえて明確にしたり考えを工夫したりして文章を書いているという意識は大きく上回っている。	□漢字の学習と読み取る学習を繰り返して行い、基礎的な力を高める学習を行う。 □授業での問いかけやテキストの問題、単元テストに取り組むことを多くし、問われていることと何をどう答えるかを確認する学習を行う。 □前述の二項目に併せて、主語・述部(何をどのようにどうする)を押さえて考えを明確にして書く作業のある学習を繰り返して行う。
	3年	○教科全体の正答率は県平均と全国平均を上回っている。 ○「情報の扱いに関する事項」と「読むこと」が県平均、全国平均を大きく上回っている。 ●文脈に即して正しく漢字を書き、使うことに課題が見られた。 ●国語に関する意識が全国、県と比較して低い傾向にある。	□漢字の成り立ちや意味を学習し、漢字に対する興味を持たせようとして、日常生活の中でも進んで漢字を使う意識を高める。 □生徒の考えで良かった点を取り上げ、紹介したり、互いによかった点を話し合う活動を意識的に行ったりする。
数学	1年	○教科の正答率は、市平均と同程度であり、全国平均を上回っている。 ○観点別に見ると、知識・技能、思考・判断・表現ともに市平均と同程度であり、全国平均を上回っている。 ●市平均との比較では、数と計算の領域でやや下回り、他の領域では同程度である。	□単元テストを実施したりすることで、各領域の基礎問題の定着を図る。 □各単元の結びつきを大切に、系統立てて考えるように習慣づける。 □文字と式の表し方を丁寧に確認し、知識として定着するように繰り返し問題演習を行う。 □自分の考えを、専門用語を使って記述・発表させる場面を意図的に取り入れる。
	2年	○「比例・反比例」の分野においては、正答率が全国平均と同程度であった。 ●教科の正答率は全国平均値を大きく下回る結果となった。 ●領域別正答率では、特に「数と式」の領域が、観点別正答率では、特に「知識・技能」の領域が全国平均値を大きく下回る結果となった。	□週末課題や小テストを取り入れ、基礎基本の定着を図る。 □普段の授業から、お互いに自分の考えなどを説明し伝え合う「学び合いの授業」を取り入れる。 □週末課題の範囲を毎回指定して、問題をくり返し解かせることで定着を図る。
	3年	●教科全体の正答率は県平均と同程度、全国平均を下回っている。 ○領域では「数と式」は全国平均と同程度、県平均をやや上回っている。「関数」は県平均と同程度、全国平均を大きく下回っている。 ●問題形式では、全国平均と比べて「短答式」は下回り、「記述式」は大きく下回っている。	□課題テストや小テストを実施し、それに向けての家庭学習を促すことで、各領域の基礎問題の定着を図っていく。 □関数の問題は、1年から3年までつながる内容であることを押さえ、既習事項と関連づけながら基礎の定着を図る。 □説明する問題では、手順やポイントを提示し、手順に沿って繰り返し練習したり、生徒同士で説明しあったりすることで力を身につけさせる。
英語	2年	●教科全体の正答率が、全国と出雲市の平均を大きく下回っており、領域別正答率では「聞くこと」「読むこと」「書くこと」全てで全国・出雲市を大きく下回っている。 ○並べ替えによる英作文では出雲市平均と同程度である。 ●「リスニングで対話文のお応答を選ぶ問題」と、「情報に基づいて英作文を書く問題」が特に正答率が低かった。	□「聞くこと」に関しては、日常的に英語の対話を聞く活動を取り入れる。 □「読むこと」に関しては、さまざまな分野の話を読み、大まかな内容理解だけでなく、読んだ内容をまとめ意見を書くなどの発展的な学習を行う。 □「書くこと」に関しては、自分の考えを伝える場面設定を工夫し、強みである語順の理解を活用して表現する活動を増やしていく。その際、話す活動でさまざまな語彙、語形、文法を使うことに抵抗感をなくし書くことにつなげていく。
	3年 3技能 「聞く」 「読む」 「書く」	○教科全体の正答率が、全国を下回り、県平均を上回っている。 ●技能別正答率では「聞くこと」は全国と同程度、「読むこと・書くこと」は全国を下回っている。 ●問題別では、「書くこと」で、日常的話題について15～30語のまとまりのある文章を書くことに課題がある。	□「読むこと」に関しては、さまざまな分野の話を読み、大まかな内容理解だけでなく、読んだ内容をまとめたなどの発展的な学習を行う。 □「書くこと」に関しては、他者とのコミュニケーション活動において、自分の考えを伝える場面設定を工夫し、語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を駆使することに抵抗感をなくし、失敗を恐れず書くことにつなげていく。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○1,2年で「授業で先生の話をしっかり聞いて」と答えた生徒の割合は、全国平均よりも大きく上回っている。 ○「話し合い活動で自分の考えを積極的に話している」、「相手の話をしっかり聞き取っている」と答えた生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。 ○1,2年で「勉強にパソコンを利用している」が全国平均を、3年で「ICT機器を使って情報を整理することができる」と答えた生徒が鳥根県平均を大きく上回る。 ●1,2年で「勉強に辞書・参考書・問題集などを使っている」と答えた生徒は全国平均を下回っている。	□話し合い学習で積極的に自分の考えが出せるように、ペアや小集団の話し合いを増やしたり、話し合い学習での約束事を作ったり、役割を決めたりするなどして、積極的な話し合い活動になるように工夫する。 □生徒はICTを使用した学習について意欲的である。加えて調べ学習や教科の学習に関連した図書を用意し、生徒自身が主体的に媒体を選択して学習ができるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○1,2年生は「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」、「宿題をしている」と答えた生徒の割合が全国平均を大きく上回っている。 ●2年生では平日の読書の時間を「全くしない」と答えた生徒の割合が市の平均を大きく上回っている。 ●1,2年生で「授業で分からないことがあれば先生に質問をしている」と答えた生徒の割合が全国平均を下回る。 ●3年生はインターネット等の利用時間は、全国平均と同程度であるが、平日1時間以上学習すると答えた生徒の割合が県、全国平均よりも大きく下回っている。	□家庭学習の習慣がつくように、生徒自身が現状を振り返り、改善してより充実した家庭学習ができるよう指導していく。 □ICTを活用し、主体的に学習できる家庭学習になるように内容を工夫する。 □朝読書の時間や図書館利用を充実させ、読書習慣が身につくように指導する。 □授業の中で質問等ができる雰囲気を作り、理解を深めさせ家庭学習の充実につながるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」と答えている生徒が全国平均を上回っている。 ○全学年で「学校での出来事を家の人に話している」と答えた生徒が全国平均を上回っている。 ●1,2年生では平日のテレビゲームやインターネットの利用時間が2時間以上と答えた生徒が市の平均を大きく上回っている。	□家庭とも連携しながら、自分のメディアへの接し方、時間の使い方について考える学習を行う。 □総合的な学習の時間に行うふろさと学習を通して、地域についての理解を深め、地域のために何ができるかを考える機会を設けていきたい。自分の住んでいる地域だけではなく、他地域に目を向ける学習も取り入れることで、自分の地域と比較し、良さや魅力を発見できるような学習を取り入れる。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立斐川東中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

(学 力 調 査) ○1年生国語は市・全国平均と同程度である。○数学は市平均と同程度で、全国平均を大きく上回った。
○2年生国語は市平均と同程度で、全国平均はやや上回った。●数学は市平均をやや下回り、全国平均英語は市、全国ともやや下回った。
○3年生国語は、県・全国平均と同程度である。○数学は、県平均を大きく上回り、全国平均は同程度である。●英語は、県・全国平均より下回っている。

(学習状況調査) ○1・2年生は「伝えたいことを明確にして、文章を書いている」が全国平均を大きく上回った。
○3年生は「学校の授業時間以外の1日当たりの読書時間」が全国平均を上回った。
●1・2年生は「国語と数学の授業のために予習をしている」が全国平均を下回った。
●1・2年生は「国語と数学の授業でわからないことがあれば、先生に質問している」が全国平均を大きく下回った。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○平均正答率、および基礎・活用ともに、市・全国平均と同程度である。 ○情報の扱いに関する事項において全国平均を上回っている。 ●話すこと・聞くことにおいては全国平均を大きく下回っている。	□漢字テストにおいて、正しい字形を意識させる事前説明や、返却後の直し提出など、テスト前後を含めた指導を引き続き行い定着を図る。文法は既習範囲の復習機会を設定し理解定着を図る。 □単元に関連した図書や新聞記事などを紹介し、さまざまなジャンルの文章に触れたり読んだりすることで、語彙力・表現する力をつける一助とする。
	2年	○平均正答率、および基礎・活用ともに市・全国平均と同程度である。 ○我が国の言語文化に関する事項において、市平均を大きく上回っている。 ●情報の扱い方に関する事項において、市・全国平均ともに大きく下回っている。	□単元漢字テスト、受験を見据え定期的に全校実施する漢字テスト等の取組を通して読み書きの定着を図る。 □文章の読み取りにおいては、全体の構成をとらえるような課題、論の進め方や表現について着目する課題などに取り組みせ、条件に応じた表現ができる力をつける。
	3年	○平均正答率は、県・全国平均と同程度である。 ○自分の考えをまとめて書くことにおいては県・全国平均を大きく上回っている。 ●組み合わせや適切なものを選択する問い数問において、ほとんどが県・全国平均を大きく下回っている。	□単元漢字テスト、受験を見据え定期的に全校実施する漢字テスト等の取組を通してさらなる定着を図る。また、文法や言語事項の力をつけるために授業中の復習時間を随時設定する。 □文章の読み取りの中で、全体の構成をとらえるような課題、論の進め方や表現について着目する課題などに取り組みせ、条件に応じた表現ができる力をつける。
数学	1年	○平均正答率は基礎、活用とも全国平均を上回っている。市平均とは、同程度である。 ●「平面図形」の領域が市平均を下回っている。	□既習事項を確認しながら、くり返し問題を解く時間を設け、基礎・基本の定着を図る。 □培った知識を生かすことができるよう、適宜活用問題等にも取り組む。 □ICT機器を活用して、いろいろな図形の特徴が理解できるような授業を工夫する。
	2年	○平均正答率は基礎、活用とも市平均とは、同程度である。 ○「文字式」は市平均、全国平均ともに大きく上回っている。「空間図形」は全国平均を上回っている。 ●活用において全国平均を下回っている。	□小テスト等を活用しながら、繰り返し問題を解かせ、さらなる定着を図っていく。 □培った知識を生かすことができるよう、適宜活用問題等にも取り組む。 □平面図形、空間図形については、視覚支援として図や絵を示す。 □変化の様子を示す際には、ICT機器等を活用しながら行う。
	3年	○平均正答率は、全国平均と同程度であり、県平均を大きく上回っている。 ○「データの活用」領域の平均正答率が、全国、県を大きく上回っている。 ●関数の問題は平均を下回っている。	□既習事項を確認しながら授業を進め、基礎・基本の定着を図る。 □文章問題や記述問題に触れる機会を増やす。 □自分の考えを数学的な用語等を使って記述できるように、場の設定をする。
英語	2年	○短めの対話文に対する答えなど知識・技能の力を試す問題の正答率が高い。 ●問題文に対しての答えを3語以上や3文以上の英語で答えること。(リスニング・ライティング) ●長めの対話文を読み、場面に合う答えを選択すること。	□具体的な場面を設定したうえで、ライティング活動を行う。また他の生徒の内容を参考にできるような活動にして表現の幅が広がるようにする。 □既習の単語の復習や身近な場面の対話文に挑戦する機会を増やす。
	3年 3技能 「聞く」 「読む」 「書く」	○お店での注文など身近な場面の英語を聞き取ること。 ●自分の考えをまとまりのある文章で書くこと。 ●日常的な話題の長文から必要な情報を読み取ること。	□具体的な場面を設定したうえで、ライティング活動を行う。また他の生徒の内容を参考にできるような活動にして表現の幅が広がるようにする。 □既習の単語の復習や長文読解に挑戦する機会を増やす。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○1・2年生は「勉強するときは、集中して勉強している」、「話し合いで、自分の考えを積極的に話している」が全国平均を上回る。●1年生は「国語、数学の授業でわからないことがあれば先生に質問をしている」が全国平均を下回る。 ○3年生は「課題の解決に向けて、自ら取り組んでいた」が全国平均を上回る。○「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになった」が全国平均を上回る。	□各教科の授業では、これまでと同様話し合いを取り入れるようにする。 □授業で教員にいつでも気軽に質問できる雰囲気づくりに努める。 □授業後の振り返りの時間に、生徒が自由に先生に質問できる時間を短時間でも設けるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○1・2年生は自分で計画を立てて、勉強している」が全国平均を上回る。 ●1・2年生は「勉強に辞書を利用している」「本(漫画や雑誌を含まない)を読んでいる」が全国平均を下回る。○3年生は「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」でどちらかといえばできていると答えた生徒が全国平均と同程度である。●3年生は学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどのくらいの時間勉強するか」が2時間以上と答えた生徒の割合が全国平均を下回る。	□1・2年生でテスト計画表などを活用し、テスト前の家庭学習の定着を図ると。 □学習者用タブレットの利用を促進するとともに、参考書や新聞、辞書などの紙媒体での学習の重要性を指導していく。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	●1年生は「地域の行事に参加している」が全国平均を下回る。○2年生は全国平均を上回る。○3年生は「人の役に立つ人間になりたいと思うか」と「将来の夢や目標を持っている」で当てはまると答えた生徒の割合が全国平均を上回る。	□地域に根ざしたふるさと学習を今後も継続し、地域の方々と触れ合う機会をもっていく。 □ボランティア委員会が適宜呼びかけ、地域の駅清掃活動や地域のお祭りイベントスタッフの募集を積極的に行っていく。

令和8年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立斐川西中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【1年 出雲市学力・学習状況調査】 ○教科の正答率が全国平均正答率と比較して、国語は同程度、数学はやや上回った。
【2年 出雲市学力・学習状況調査】 ○教科の正答率が全国平均正答率と比較して、国語と英語は大きく上回り、数学は同程度だった。
【3年 全国学力・学習状況調査】 ○教科の正答率が全国平均正答率と比較して、国語は同程度、数学は大きく下回った。英語の平均スコアは全国を下回ったが、市平均を上回った。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○「情報の扱い方に関する事項」において、全国平均を大きく上回る。 ●「書くこと」において、全国平均を大きく下回る。	□「書くこと」において、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように、工夫して文章を書く学習を設定する。
	2年	○「基礎」「活用」とも、全国平均を大きく上回る。特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」が全国平均を大きく上回る。 ●「我が国の言語文化に関する事項」が全国平均を大きく下回る。	□歴史的仮名遣いや文節の関係について補充学習を行う。 □さまざまな文種や文章を書いて楽しむ機会を設定する。
	3年	○自分の考えを書く問題では、全国平均を大きく上回る。 ●「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国平均を大きく下回る。	□「読むこと」について文章の中心的部分と付加的部分について叙述をもとに捉えることができるように、指導する場を設定する。
数学	1年	○「数と計算」の領域における正答率が、全国平均をやや上回る。特に、「小数・分数の計算」「文字と式」では、全国平均を大きく上回る。 ●内容別正答率では、「整数の性質」「百分率」の正答率が、全国平均を下回る。	□用語・定義の解説をくり返し丁寧にしたり、日々の授業で小テストや既習事項の復習を行ったりして、基礎基本の定着を図る。 □小学校での学び直しとして割合の考え方も復習する。 □「学び合い」を行い、教わる生徒・教える生徒それぞれが自身の理解を深めることができるようにする。
	2年	○「図形」の領域における正答率が、全国平均をやや上回る。特に、「平面図形」では、全国平均を上回る。 ●内容別正答率では、「正の数・負の数」「1次方程式」の正答率が、全国平均を大きく下回る。	□用語・定義の解説をくり返し丁寧にしたり、日々の授業で小テストや既習事項の復習を行ったりして、基礎基本の定着を図る。 □「家庭での計算練習」と「学校での計算テスト」のサイクルを繰り返すことで力を育む。
	3年	○「データの活用」の正答率が全国平均を上回る。 ●「平行になるための条件」「三角形の合同の証明」「累積度数」の正答率が全国平均を大きく下回る。	□用語・定義の解説をくり返し丁寧にしたり、日々の授業で小テストや既習事項の復習を行ったりして、基礎基本の定着を図る。 □「家庭での計算練習」と「学校での計算テスト」のサイクルを繰り返すことで力を育む。
英語	2年	○「書くこと」「思考・判断・表現」が全国平均を大きく上回り、「聞くこと」「読むこと」において、必要な情報や要点をとらえる問題の正答率が全国平均を上回る。 ●与えられた情報に基づいて、三人称単数現在時制のcanを使った肯定文を書く問題は全国平均を下回る。	□授業の帯活動で基本文型(be動詞・一般動詞・三人称単数・過去形)の反復練習を継続し、正確な英文を書く力を定着させる。 □ワークや家庭学習用ノートを活用し、家庭学習においても文法事項の定着と語彙の拡充を図る。
	3年 3技能 「聞く」「読む」「書く」	○「聞くこと」が全国平均を上回り、「話すこと」は同程度。 ●社会的な話題について自分の考えと理由を記述する問題の正答率が低い。	□授業のまとめ場面で「自分の考え+理由」を英語で書く活動を継続し、短文からまとまりのある文章へ段階的に指導する。 □読んだ内容や聞いた内容について、自分の考えを理由とともに表現するパフォーマンス課題を単元末に実施する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○2年生では「話し合いで自分の考えを積極的に話している生徒」が72.6%で全国平均より25.9ポイント高い。また、「相手の話を積極的に聞き取っている」生徒が95.7%で12.5ポイント多い。 ・「前の学年では授業中、自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたりして自分の考えを深めたり、広げたりすることができていた」という質問に肯定的に答えた生徒が1年生では72.2%で市平均より6.3ポイント低い。2年生では87.2%で市平均より7.3ポイント高い。3年生では話し合い活動を肯定的に捉えている生徒が87.4%で全国と同程度。 ●1年生では国語や数学の授業で「分からないことがあれば先生に質問をしている」という生徒が全国平均に対して13ポイント下回る。 ○「前の学年では授業中にICT機器(タブレットパソコン等)を週に数回以上使用した生徒」は1年生が89%で市平均より10.1ポイント高い。2年生は79.3%で市平均より8ポイント高い。3年生は「授業で週3回以上使用した」生徒が67.5%で全国を4.8ポイント下回る。	□学習の目標(めあて等)と振り返りを意識した「わかる授業」を実施し、生徒が目標や見通しをもって授業に取り組み、授業内容を振り返ることができるようにする。 □対話を通じて考えを広げ深める過程を意図的に授業に組み込み自分の言葉で表現する経験を積み重ねるとともに、授業の「振り返り」を行い「自分の考えを言語化する」活動を毎時間積み重ねる。 □月に1回10分間の話し合いタイムである「西中タイム」を実施し、安心して学びに向かえる集団を育て、対話的な学習の素地を育成する。 □一斉学習、個別学習、協働学習の各場面でICT機器を効果的に活用し、情報収集や思考ツールを使った情報整理のスキルを高める。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	・「平日(月～金曜日)1日あたりテレビ、DVD、テレビゲーム、インターネット等を2時間以上見る生徒」が1年生では54.8%で市平均と同程度。2年生は57.9%で市平均より少し少ない。3年生は77.1%で全国平均より2.2ポイント多い。 ○2年生では「家の人から言われなくても、進んで勉強している」生徒は75%で、全国平均より17.1%高い。また、「自分で勉強の計画を立てて勉強している生徒」が75.8%で全国平均より16.9ポイント多い。 ・「学校に行く日は、学校の授業以外に1日にどのくらい勉強をしますか」という質問に対して、1～2時間勉強している生徒が1年生は約54%で全国平均と同程度、2年生は72%で全国平均より21.3ポイント多い。3年生は1時間以上勉強する生徒が43.3%で全国平均を18.3ポイント下回る。 ・「平日の勉強時間が30分以下」という生徒が1年生は45.8%で全国より7.6ポイント多く、3年生は29.6%で全国より10.8ポイント多い。2年生は24.4%で全国平均より18.8ポイント少ない。	□「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の意義や仕方について説明して、家庭学習につながる授業づくりをすすめる。各教科で計画的に課題を与え、家庭学習の習慣化を図る。 □家庭学習・学習内容の定着を目指し、タブレットPCでドリルパーク等の課題の配信を行う。更に与えられた課題だけでなく、主体的に取り組んでいけるように学習指導も行う。 □将来の夢や目標に向けて進路計画を立てさせ、家庭学習の内容や時間の充実に図る。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	・「地域や社会をよくするために何をしたらよいか考えることがありますか」という質問に肯定的に答えた生徒が1年生は30.3%、2年生は29.3%で市平均と同程度。3年生は「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に肯定的に答えた生徒が67.5%で全国を4.8ポイント下回る。 ・「地域の行事に参加している」生徒の割合が1年生は52.9%、2年生は42.1%で全国平均と同程度。 ●1・2年生ともに、「新聞の記事を読んでいる」生徒が15%程度で、全国平均より約11ポイント低い。3年生は25.3%で全国平均より9.5ポイント多い。	□地域の「ひと・もの・こと」などの地域素材を各教科や総合的な学習の時間に積極的に活用して地域社会への関心を高めるとともに、地域の課題と向き合い、解決策を探究したり地域の思いを学んだりする授業を展開する。 □コミュニティーセンター等と連携して、地域の行事やボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、社会や地域と関わる機会を増やす。 □学校だよりや学年・学級通信を発行し、家庭や地域との連携を図る。